

【A年】

復活節第二主日

全能の父よ、主は、わたしたちを罪から救うためひとりの御子を死に渡し、また義とするためによみがえらせてくださいました。どうか悪意とよこしまのパン種を除き、常にまことの信仰と清き行いをもってあなたに仕えさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましよう」

会衆は着席する。

使徒言行録

朗読者 「使徒言行録は第二章十四節から」

14すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。

22 「イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不

思議な業と、しるしとによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおりです。23 このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまつたのです。24 しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかつたからです。25 ダビデは、イエスについてこう言っています。

『わたしは、いつも目の前に主を見ていた。』

主がわたしの右におられるので、わたしは決して動揺しない。

26 だから、わたしの心は楽しみ、

舌は喜びたたえる。

体も希望のうちに生きるのであろう。

27 あなたは、わたしの魂を陰府に捨てておかず、

あなたの聖なる者を

朽ち果てるままにしておかれない。

28 あなたは、命に至る道をわたしに示し、

御前にいるわたしを喜びで満たしてくださる。』

29 兄弟たち、先祖ダビデについては、彼は死んで葬られ、その墓は今でもわたしたちのところにあると、はっきり言えます。30 ダビデは預言者だったので、彼から生まれる子孫の一人をその王座に着かせると、神がはっきり誓ってください

たことを知っていました。

31そして、キリストの復活について前もって知り、

『彼は陰府に捨てておかれず、

その体は朽ち果てることがない』

と語りました。32 神はこのイエスを復活させられたのです。

わたしたちは皆、そのことの証人です。

朗読者 「使徒言行録を終わります。」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第一一編

1 ハレルヤ、心を尽くして主に感謝しよう＝ 神をたた

える人々の集いの中で

2 主のみ業は偉大＝ 業を愛する者は皆これを樂しむ

3 そのみ業は力と輝きに満ち＝ その正義はとこしえに

及ぶ

4 主は不思議なみ業の記念を残された＝ 主は恵み豊か

で憐れみ深く

5 神を畏れる者には糧を恵み＝ とこしえに契約を心に

留めてくださる

6 神はその民に力を現し＝ 国々の領地を分け与えられ

た

7 み手の業はまことで正しく＝ すべてのみ論しは揺る

ぎなく

8 世々、とこしえに据えられ＝ まことと正しさに基づ

いている

9 神はその民を救い、契約をとこしえに結ばれた＝ 神

の名は尊く、畏るべきもの

10 主を畏れることは知恵の初め＝ これを行う者にはす

べてよい悟りが与えられる、神への賛美はとこしえに続

く

使徒書

朗読者 「使徒書はペトロの手紙I 第一章三節から」

3 わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめ

たたえられますように。神は豊かな憐れみにより、わたした

ちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの

復活によって、生き生きとした希望を与え、4 また、あなた

がたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しほ

まない財産を受け継ぐ者としてくださいました。5 あなたが

たは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受

けるために、神の力により、信仰によって守られています。

6 それゆえ、あなたがたは、心から喜んでいてるのです。今

しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもし

れませんが、7あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながら朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と誉れとをもたらすのです。8あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないのに愛しい喜びに満ちあふれています。9それは、あなたがたが信仰の実りとして、魂の救いを受けているからです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第二〇章十九節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

19その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダ

ヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。20そう言つて、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。21イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」22そう言つてから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。23だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

24十二人の一人でデイデイモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。25そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うのと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」26さて八日の後、弟子たちはまだ家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。27それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」28トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。29イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

30 このほかに、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさしたが、それはこの書物に書かれていない。31 これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」